

新市長を迎え、 市制120周年の四日市市がスタート

明治30年に全国で45番目の市として誕生し、今年、市制施行120年を迎える四日市市。

昨年12月に就任し、この節目の年に市政のかじ取りを本格的にスタートさせる森智広新市長に抱負を語ってもらうとともに、120年の歩みを振り返り、四日市の今と未来に思いをはせます。



森智広市長プロフィール

年齢：38歳(昭和53年生まれ)

学歴：西陵中学校/四日市南高等学校卒業

立命館大学理工学部卒業

早稲田大学大学院公共経営研究科修了

職歴：公認会計士、税理士

四日市市議会議員(2期)

元気なまち四日市へ

このたび、四日市市長選挙にて市民の皆さんのご負託を賜り、第十七代の市長に就任させていただくことになりました。

6年前、私は生まれ育った四日市のために残りの人生を費やしたいと決心し、東京から地元四日市に戻ってきました。それから5年半、市議会議員として市政に関わるほどに、四日市の魅力やまちとしての可能性を感じました。

今、本市は人口減少という大きな問題に直面しています。まちの魅力が失われつつあり、人が離れていく現状に、私は大きな危機感を抱いています。四日市が20年後、30年後も元気で活力のあるまちであり続けるためには、今、市政をダイナミックに変革する必要があると強く感じています。

そのために、私は「経営力、組織の向上」を進めていきたいと思えます。民間の考えを徹底的に取り入れた新しい価値観で攻めの自治体経営を実行していくことで、必ず四日市は変わります。市民が誇りを持てるまちをつくりあげていくため、これから全力で取り組んでいきます。



伊勢湾の日の出

ちゃんねる
連動



今回の特集の内容は、
市政情報等提供番組
「ちゃんねるよっかいち」でも紹介します

- 地デジ12ch(CTY)
- 1月1日(祝)～10日(火)に放送
月・水・金・日曜日 9:30、20:30
火・木・土曜日 12:30、20:30

私がこれから実現したいこと

産業振興

水素エネルギーなどの次世代エネルギーを活用した世界最先端のスマートタウン構想を推進します。

民間でできることは民間に。地元企業でできることは地元企業に。入札制度改革や中小企業への支援の拡大などを通し、企業の育成や競争力強化につなげます。

子育て・教育支援

四日市の人口減少に歯止めをかけ、子育て世代に選ばれるまちに向けた政策を実行します。

子ども医療費窓口負担ゼロ、中学校給食の導入、待機児童の完全解消などを進めていきたいと思います。

福祉・医療の充実

在宅介護体制の充実や障害者雇用率の向上などの施策を通し、高齢者も障害のある人も誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めます。また、市立四日市病院を中心とした地域の救急体制の充実を図ります。

市役所改革

公認会計士の経験を生かし、民間経営の考え方を取り入れた新たな価値観での自治体経営を目指します。新たな公会計システムの導入により精緻な経営分析を可能にし、市役所の組織力強化につなげます。

120年の歩みを振り返る

1897
明治

- 1897(明治30)年 8月1日
全国で45番目の市として市制施行
- 1899(明治32)年 5月
関西鉄道の名古屋・湊町(大阪)間が全通
- 1899(明治32)年 8月
四日市港が開港場に指定される



明治末期の
四日市港

1912
大正

- 1914(大正3)年 6月
三重紡績と大阪紡績が合併し、東洋紡績設立。本社を四日市に置く
- 1922(大正11)年 3月
伊勢鉄道新四日市駅(現在のJR四日市駅)開業(写真)



1926
昭和

- 1930(昭和5)年 1月
海蔵、塩浜の両村と合併。以降、昭和16年(5町村)、昭和18年(2村)、昭和29年(10村)の合併を経て、昭和32年の合併(2村など)で楠町を除く現在の市域まで拡大



昭和6年に竣工した市の庁舎(浜町)

- 1936(昭和11)年 3月
新港完成を祝う「国産振興大博覧会」開催



博覧会会場(千歳町)の配置図

古来から続く人の営み

本市の歴史は古く、市内各地には旧石器時代の土器や弥生時代の集落跡、そして奈良時代の地方の役所跡と見られる久留倍官衙遺跡など、さまざまな時代を通して人の営みを伝える遺物、史跡が数多く見つかっています。

地域の交通・物流の要地であったことから、室町時代には定期市が開かれるようになり、これが「四日市」の名の由来といわれています。そして、江戸時代には東海道五十三次の43番目の宿場町となり、参勤交代や伊勢参宮など、人・物の往来がますます活発化しました。また、海上交通においても天然の良港を拠点に多くの回船が行き交い、陸海の交通要地の商業のまちとして大いに繁栄しました。

こうして歴史をたどると、古くから先人たちがこの地につくってきたにぎわいが、今の四日市市のルーツにあることに気付かされます。



室町時代の定期市の様子(博物館常設展の展示)

商業のまちから工業都市へ

市制が施行された120年前、日本は近代国家へと歩み出していました。その縮図のごとく、四日市ではさまざまな近代産業が興り、発展を遂げます。この礎となったのは四日市港の存在でした。

明治6年から17年にかけて、稲葉三右衛門が私財を投じて行った修築事業を契機に、四日市港は、国際貿易港へと発展していきます。明治32年に伊勢湾で最初の開港場に指定されると、紡績をはじめ、製糸、漁網、製陶など、さまざまな産業の輸出拠点となっていきました。

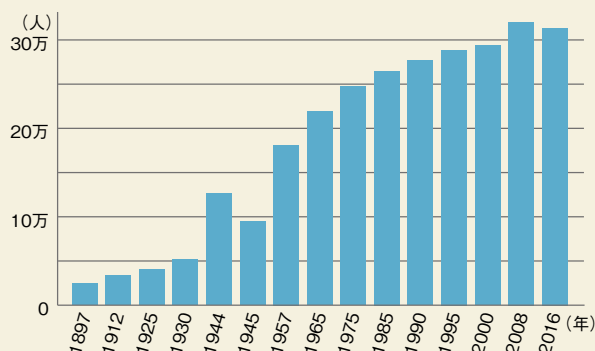
一方で、明治32年には関西鉄道(現在の関西本線)の名古屋・大阪間が全通します。こうして陸海の交通に恵まれた四日市は、商業のまちから工業都市へと変遷していくことになります。

進むまちづくりと市域の拡大

市制施行以来、四日市港はさらなる整備が進められ、綿花の輸入港としてもにぎわいを見せていきました。また、明

治末期から昭和初期にかけて道路や河川の整備、大規模な土木事業が行われ、市街地の開発も進みます。こうした市勢の進展に対応し、昭和5年から32年にかけて、段階的に町村合併を繰り返して市域を拡大していきました。

人口の変遷 市制施行当時約2万5千人だった人口は、町村合併を経て順調に増加。1944(昭和19)年には12万7千人近くになりますが、戦災で1945(昭和20)年には25%近く減少し、10万人を割り込みます。戦後は高度経済成長とさらなる合併を経て急激に増加。2008(平成20)年にピーク(約31万5千人)を迎え、その後は微減傾向で今日(約31万2千人)に至ります。



環境先進都市、そして21世紀の産業都市モデルへ

戦後、臨海部に形成された石油化学コンビナートは、高度経済成長を遂げた日本経済の象徴であり、本市に飛躍的な発展をもたらしました。しかしその反面、環境への十分な配慮を欠き、大気汚染や水質汚濁などの大きな公害をもたらすことになりました。

公害の解決に向け、全国初の硫黄酸化物の総量規制など、行政と企業のパートナーシップによる先駆的な取り組みが行われました。さらに、昭和42年から平成22年にかけて、企業による環境設備への投資やインフラの整備など、官・民あわせて約9,800億円の巨費を投じての環境改善が着実に進められてきました。

そして、産業においては、内陸部の半導体製造企業の立地をはじめ、臨海部における高付加価値製品への転換や研究開発機能の集積などにより、近年は、地域全体が時代の最先端を行く高度部材供給拠点となっています。



1945 昭和

- 1945(昭和20)年 6月
空襲で市街地が焦土となる
- 1952(昭和27)年 2月
四日市港が特定重要港湾に指定される
- 1955(昭和30)年 8月
四日市高校が全国高等学校野球選手権大会で優勝



大会で優勝

諏訪新道での優勝パレード

- 1959(昭和34)年 9月
伊勢湾台風襲来
- 1963(昭和38)年 10月
ロングビーチ市と姉妹都市提携を締結
- 1968(昭和43)年 10月
四日市港とシドニー港が姉妹港提携を締結
- 1972(昭和47)年 7月
四日市公害裁判で原告側全面勝訴の判決
- 1975(昭和50)年 9月
三重国体が市内で開催される



夏季大会の開会式
(中央緑地水泳球技場)

- 1980(昭和55)年 10月
天津市と友好都市提携を締結

1989 平成

- 1992(平成4)年 4月
平成4年4月4日を記念して「オープンバザール四日市」を開催(現在の「エキサイト四日市・バザール」)
- 1997(平成9)年 8月
市制施行100周年に合わせて四日市ドームがオープン(写真)。記念式典を開催



- 2005(平成17)年 2月
楠町と合併。人口が30万人を超える
- 2008(平成20)年 4月
保健所政令市へ移行。市制施行111周年を記念しての事業が年間を通じて行われる
- 2015(平成27)年 3月
四日市公害と環境未来館がオープン



市制施行120年キャッチコピー

120年の絆、

四日市の今、そして未来

本市の将来に向けた発展を考えたとき、まずは最大の強みである多様な産業の集積と、そのさらなる進展が大きな鍵となることでしょう。

一方で、本市には、歴史の中で育まれてきた萬古焼やかぶせ茶などの地場産品、「大入道山車」や昨年ユネスコ無形文化遺産に登録された「鳥出神社の鯨船行事」などの文化財・伝統行事、さらに最近では工場夜景や四日市とんてきなど、豊かな地域資源があります。また、中心市街地のにぎわいは、商業のまちとしても発展してきた本市の「顔」と言えます。

そして、「博物館」「プラネタリウム」「四日市公舎と環境未来館」が一体となった「そらんぼ四日市」は、未来志向で四日市を広く発信する拠点であり、四日市を象徴する施設です。

全国的に少子高齢化・人口減少が進む中、これから先、本市が「選ばれるまち」になるためには、市外の人に向けて本市をPRするための情報発信が不可欠です。そのためには、まず私たち市民一人ひとりが本市の特色や良さを改めて認識し、郷土に愛着と誇りを持つことが第一歩になるのではないのでしょうか。



四日市JCT(提供:中日本高速道路(株))





まちかどで出会った
 “四日市LOVE♡”
 な皆さん

これからもずっと この街で — 四日市。

120周年を祝い、盛り上げる

市では、今年、市制施行120周年を祝う記念事業を予定しています。記念事業を企画し、盛り上げていくため、「四日市市制施行120周年記念事業企画委員会」（以下「企画委員会」）を設置しました。多くの人の心に残る120周年にできるよう、今後、企画委員会で議論を重ねていきます。



編集後記

豊かな自然と歴史、文化、そして産業。さまざまな顔があり、一言で言い尽くせない魅力にあふれる四日市。市内で暮らす人はもちろん、通勤する人も通学する人も含め、この節目の年に四日市にいる皆さんが、今回の特集を通してこのまちのことを改めて知り、考え、好きになってもらうきっかけになればと思います。（政策推進課 位田、広報広聴課 木塚）



企画委員会 委員長
 小林慶太郎さん
 （四日市大学 教学部長）
 （総合政策学部教授）

市制120周年を迎えるに当たり、記念イベントなどでお祝いすることはもちろんですが、一過性のもので終わらないことが重要かと思います。市制111周年の際にもさまざまな記念行事が行われ、それがきっかけで今まで続いている催しなどもあります。今回の120周年でもこの先の四日市へつながるものが残るよう、今後、市民、企業、行政が一丸となって盛り上げていければと思います。

●この特集についてのお問い合わせ・ご意見は **政策推進課 ☎354-8112 FAX 354-3974**
広報広聴課 ☎354-8244 FAX 354-3974